

日本地球電気磁気学会会報(第73号)

1977年2月22日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16(〒113)

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 (内線6476)

1. 第61回総会ならびに講演会の開催について

春の学会は国立極地研究所のお世話で、東京で開催されます。

- 1) 期 間 昭和52年5月11日(水)～14日(土)
- 2) 会 場 板橋区栄町36 板橋区立産業文化会館(電)964-5811
- 3) 講演申込および予稿原稿提出先

〒116 東京都文京区弥生2-11-16

3月31日(必着)

東京大学理学部地球物理学科

河 野 長 宛 締 切

(予稿集原稿は、同封の規定用紙を使用し、黒インク又は黒ボールペンで丁寧に書き下さい。用紙が更に必要な場合は上記学会連絡先あてに御請求下さい。)

- 4) 田中館賞候補者推薦ならびに総会議題の申込は、4月9日(土)までに委員長までお送り下さい。

宛先 〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部地球物理学教室 前 田 坦

- 5) 今回の学会では宿舎の斡旋は特に行いませんので、各自御手配下さい。

## 9. 第9期役員選挙結果

昭和51年12月に行われた選挙の結果は、12月16日に東大地球物理学科講議室で開票され、下記の新役員がきまりました。

### 1) 委員長 投票総数100(白票6)

前田 坦 38 次点 加藤 進 10

### 2) 評議員 定員9名 投票総数100(白票6)

大林 辰蔵 71 広野 求和 35

福島 直 65 力武 常次 29

加藤 進 45 田中 春夫 27

(前田 坦 41)\* 平尾 那雄 26

長島 一男 40 次点 小口 高 24

永田 武 36

\*委員長当選

### 3) 運営委員 定員14名 投票総数101(無効1)

北村 泰一 45 小林 和男 30

大家 寛 42 等松 隆大 26

行武 毅 41 小嶋 稔 26

(齊藤 尚生 38)\*\* 平沢 威男 24

河野 長 37 河島 信樹 20

荒木 徹 37 恩藤 忠典 18

西田 篤弘 36 小川 利紘 18

佐藤 哲也 32 次点 武井 恵雄 17

\*\* 病氣療養中のため辞退したい旨お申出があり、運営委員会において検討の結果認めることにいたしました。

### 3. 新入会員

前回の以降下記の方々が入会され、会員総数は458名となりました。

若林 哲也(東工大理)	長瀬 泰信(福岡県立修猷館高)
富沢 一郎(電通大電気通信)	板部 敏和(九大理)
中村 良治(東大宇宙研)	勝守 真(京大理)

### 4. その他

#### 1) 三菱財団自然科学助成について

金額 1件2000万円以内 応募締切 昭和52年4月30日

9項目の重点対象分野が指定されています。詳細については学会事務所にお問合せ下さい。

#### 2) 会報72号に、講演予稿集についての一会員の方からの御提案がありました。これに対し米国におられる杉浦会員より以下のコメントが寄せられました。

講演予稿が自分の役にたたないからいいかげんに書くのであろう、従って別刷を発表者に渡したら予稿がよくなるのではないかというのが投稿者のお考えのようです。私は講演予稿が、①講演者の所属機関で旅費の選考をするについて何らかの形式でその基本材料になるか、②学会で講演の採択を決めるのに使われることになればもっと講演内容を要約した意味のある予稿を書くことになると考えます。勿論これは原則論で100%適用することは出来ないでしょうが、予稿は'informative'であるべきであるという原則は明らかにする必要があるでしょう。講演内容を予稿に要約するのは、講演者が自分の講演の最も大切な要点をはっきりつかむのに最もよい方法ですから、自分の役にもたつことになると思います。要は講演予稿というものに対する根本的な考えが大切なもの

だと思ひます。予稿に対する態度も講演自体の準備も同じ考えにもとづべきものと考えます。

あたりまえのことですが、誰でも忘れがちなことですのであえて筆をとりました。

1976年12月16日

杉 浦 正 久

(NASA Goddard Space Flight Center)

3) IAGA事務局よりお知らせ

IAGA/IBMAP Joint Assembly が1977年8月22 — 9月3日の間、米国シアトル市で開催されます。学術的会合の内容については既に出されているSecond CircularやIAGA News No.15に掲載されていますが、登録・宿泊申込などの注意は別途にThird Circularとして近々出される予定です。講演アブストラクト提出締切日は3月31日ですからご注意ください。講演は著者に限られます。この国際会議に関する問合わせ、あるいはSecond CircularやIAGA News 入手希望などは、福島 直(東大理, 地球物理研究施設)あてにお願いします。